2024年度　法政大学社会学部転・編入試験用紙

社会学科　2年次　論文　問題

※ 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。

日本で電車に乗ったとき、携帯電話については「通話を控え、マナーモードに」と頻繁にアナウンスが流れ、ほとんどの乗客はそれを守っている。これに対して、他の乗客（知らない他人）をじろじろ見ることについては、控えるようにというアナウンスもないし、もちろん法律でも禁止されていない。それにもかかわらず、ほとんどの乗客は他の乗客をじろじろ見ることはないし、ましてやしっかりと目を合わせることはない。

では、このように他の乗客をじろじろ見ないという車内の秩序は、なぜ、どのように成立していると考えられるか、社会学的に考察しなさい。

2024年度　法政大学社会学部転・編入試験用紙

社会政策科学科　２年次　論文　問題

※ 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。

岸田内閣が掲げた「常に子どもの最善の利益を第一に考える」という方針に基づき、2023年4月1日、「こどもまんなか社会」の実現を目指して「こども家庭庁」が発足した。同日には、「子どもの権利条約」の精神に則った「こども基本法」も施行、「こどもの視点」を政策立案に反映する体制が整備された。「子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）」（1989年国連採択／日本は1994年批准）は、世界中すべての子どもたちに対し、生きる権利、成長する権利、暴力から守られる権利、教育を受ける権利、遊ぶ権利、参加する権利など、さまざまな権利を保障している。

こうした政府の動きから子どもの現況に目を転じてみると、ユニセフ（国連児童基金）のイノチェンティ研究所が2020年9月に刊行した『イノチェンティ レポートカード16 子どもたちに影響する世界 先進国の子どもの幸福度を形作るものは何か』において、日本の子どもの「精神的幸福度」は先進38か国中37位、という結果が示されている。それは、「生活に満足している」と答えた子どもの割合が2番目に低い、また、若者の自殺率が平均より高い、という2つの指標から導かれたものである。

新聞報道等では、2022年の「小中高生の自殺者数」が514人で統計開始から過去最多、2022年度の「児童相談所における虐待相談対応件数」が219,170件で過去最多、という数字もある。

このような日本の子どもの現状を踏まえ、「こどもの視点」に立って、子どもが幸せに成長できる社会を実現するためには、どのような課題解決策が有効と考えるか。政府・自治体や企業、NPO/NGO、地縁団体等々、社会を構成する主体がそれぞれに取り組むべき課題解決策と、それにより期待される効果について、自由に論じなさい（いずれかの主体に特化して論じても、複数の主体を扱って論じても、どちらでも構わない）。

2024年度　法政大学社会学部転・編入試験用紙

メディア社会学科　2年次　論文　問題

※ 解答は、すべて解答用紙に書きなさい。

近年、人工知能（AI）の進歩はめざましく、さまざまな場面で活用されています。たとえばアメリカのウィスコンシン州では再犯予測システムであるCOMPASが導入され、またワシントンDCではIMPACTという教師評価ツールが導入されました。これらは従来人間が行ってきた再犯の予測や教師評価という作業を自動的に行うものです。しかし、このような技術進歩による自動化には批判も寄せられています。人工知能による自動化にはどのような問題があるか、アルゴリズムという言葉を用いて説明し、さらにその問題の解決策について、あなたの考えを述べなさい。